

CA Dynamic Capacity Intelligence



概要

z Systems® 向けの CA Dynamic Capacity Intelligence は、プロアクティブで予測可能なキャパシティ管理によって、優先度の高いワークロードに割り当てられるシステム・リソースを最適化します。このキャパシティ管理ツールによって、メインフレーム・キャパシティの管理と活用を改善して、月々のライセンス料金（MLC）を削減できます。インテリジェントな自動化によって予定外のコストの急増を回避して IT 部門を強化でき、自動化された動的キャパシティ最適化を通じてサービスレベル・アグリーメント（SLA）の管理を改善できます。

主なメリット / 成果

- **SLA 管理を改善:** ミッションクリティカルなアプリケーション・デリバリと運用を継続的に最適化できます。
- **優先度の高いワークロードの継続的な最適化を自動化:** メインフレームの使用可能なキャパシティを LPAR 境界を越えて移動します。
- **ソフトウェアのコストの抑制と制御:** MLC への影響を最小限に抑えて、各 SLA の重要なワークロードを完了するように柔軟に対応できます。

主な機能

- MLC への影響を最小限に抑えて、各 SLA の優先度の高いワークロードを完了できます。
- 重要なワークロードを実行していてキャパシティを必要とする LPARS に使用可能なキャパシティを動的に移動できます。
- キャパシティのバランス調整をリアルタイムで自動化することで、使用可能なキャパシティを完全に活用できます。
- リアルタイムのキャパシティ管理に関連した労力を削減できます。
- キャパシティ移動時に実行されるアクションを完全に把握できます。

ビジネス上の課題

優先度の高いワークロードの SLA 違反は、多くの環境で許容されません。IT 部門は、事業部門に対して可能な限り最善のサービスを提供しなければならないことを理解しています。それに対して、事業部門はコスト抑制戦略を優先します。予算超過が SLA 違反とほぼ同等に許容できないと見なされているためです。

キャパシティ制限違反とコスト増大、またはビジネス・クリティカルな SLA への影響に関する議論が加熱し、ときには責任の押し付け合いになりますが、その間に顧客エクスペリエンスが低下してしまいます。課題は、いかにして期待どおりの SLA を最善の価格で達成するかということです。

MLC は、メインフレームがデプロイされる事業部門にとって、毎月の請求書で単独最大と見なされがちです。MLC の請求額は、その月の 4 時間ピーク・キャパシティ使用量（4 時間ローリング平均：R4HA）によって決まります。

IT 部門と事業部門の関係者は両方とも、コストへの影響を最小限に抑えて各 SLA の重要なワークロードを完了するための予測可能でプロアクティブな方法を望んでいます。価格オプション、監視変数、およびリソース管理戦略の最善の組み合わせを選択することで、大幅な節約を実現できます。

ソリューションの概要

CA Dynamic Capacity Intelligence は、使いやすく完全に自動化されたインテリジェントなキャパシティ管理 / リアルタイム動的キャッピング・ソリューションです。このソリューションの目的は、SLA の監視および効果的な管理と運用効率の改善を実現できるようにすることです。SLA を満たせるように優先度の高いメインフレームのワークロードが必要なキャパシティを使用できるようにすると同時に、MLC の価格設定から推測を排除することにより、IT 部門が迅速に価値を実現できるようにします。

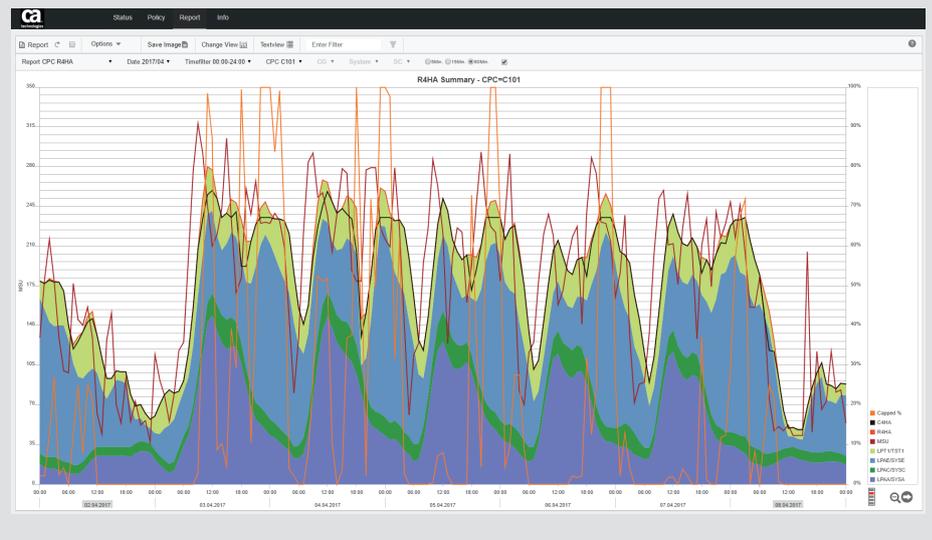
このソリューションは、時間的にもビジネス的にも重要な緊急のタスクと、しばらく延期できる優先度の低いタスクとを区別します。このソリューションは、メインフレーム・キャパシティのバランス調整を自動化して MLC 料金を削減すると同時に重要なワークロードを常に達成することにより、コストがピークになる時間帯の 1 時間あたりの総 MSU（Million Service Units）使用を低減します。

このソリューションにより、会社全体のデプロイ、監視、およびレポート生成を簡素化および自動化できる一元管理が可能になります。その結果、ソフトウェア・ポートフォリオの使用とコストなど、運用のさまざまな面の煩雑さからスタッフを解放できます。

重要な差別化要因

- ワークロードをより大きなキャパシティに移動するという現在利用できる他の最適化手法とは異なり、このソリューションはワークロードのキャパシティ使用を継続的に分析して自動的かつ動的にキャパシティを必要とされている時と場所へ移動することにより、重要なワークロードについて SLA を維持できるようにします。
- IBM の Group Capacity Limit (GCL: LPAR のグループの場合) および Defined Capacity (DC: 単一の LPAR の場合) との連携 (連携の有無、組み込み) 機能を持つこのソリューションは、現在入手できる唯一のソリューションです。
- LPAR 内または LPAR 間でワークロードの優先度に基づいて MSU キャパシティの優先度を決定できます。また、MSU 使用について柔軟な範囲を定義でき、最小限の使用量を自動的に割り当てることができます。
- 定義した最小限の使用量をすでに超過している場合は、それを新しい基準として定義することができます。
- ビジネス・イノベーションを実現するために、より多くのリソースを移動してメインフレームでの処理で、ソフトウェア・コストを低減することにより、CTO の期待に応える優れた事業継続性を達成し、CFO が要求するより経済的なメインフレーム・プラットフォームを実現し、全体的な顧客エクスペリエンスを改善することができます。

リアルタイムのピーク 4 時間ローリング平均 (R4HA) 使用量、上限、および MSU を簡単に表示できる



関連製品

- Mainframe Operations Intelligence:** 組み込みの分析機能により、問題をプロアクティブに防止し、問題修復を迅速化し、さらに多くのことを達成します。

詳細については、ca.com/jp/dci をご覧ください。

CA Technologies (NASDAQ: CA) は、企業の変革を推進するソフトウェアを作成し、アプリケーションケーション・エコノミーにおいて企業がビジネス・チャンスを獲得できるよう支援します。ソフトウェアはあらゆる業界であらゆるビジネスの中核を担っています。プランニングから開発、管理、セキュリティまで、CA は世界中の企業と協力し、モバイル、プライベート・クラウドやパブリック・クラウド、分散環境、メインフレーム環境にわたって、人々の生活やビジネス、コミュニケーションの方法に変化をもたらしています。詳細については ca.com/jp をご覧ください。

Copyright © 2017 CA. All rights reserved. 本書に記載されているすべての商標、商号、サービス・マーク、ロゴは、該当する各社に帰属しています。

本書は情報提供のみを目的としています。本書に含まれる情報の正確性または完全性について CA は一切の責任を負いません。準拠法で認められる限り、本書は CA が「現状有姿のまま」提供するものであり、いかなる種類の保証 (市場性または特定の目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証が含まれますが、これに限定されません) も伴いません。また、本書の使用が直接または間接に起因し、逸失利益、業務の中断、営業権の喪失、業務情報の損失等いかなる損失または損害が発生しても、CA は一切責任を負いません。CA がかかる損害の可能性について明示的にあらかじめ通告されていた場合も同様とします。